

上田高等学校同窓会 中南信支部会報

発行：上田高等学校同窓会
中南信支部事務局
題字：松岡翠鳳(仁太郎)氏
南安轟在住(39期)
全日展書法会副会長

会員の皆様へ 支部長 菅谷昭



FJD(フジドリームエアラインズ)が就航した松本空港にて

中南信支部同窓会会員の皆様、その後いかがお過ごしでしょうか。それぞれにお仕事や趣味等々、効率よく時間を配分され、張り合いと喜びに満ちた毎日を送っていらつしやることと拝察致しております。

お陰を持ちまして、当支部同窓会の活動は特段大きな変化もなく、当初の年度計画に従って、つががなく歩みを進めております。

毎月第一月曜日の午後七時、定例の幹事会と称して、ほつとくつろげる定められた場所で、きつぷのいいママさんの大いなるサービスを頂戴しながら、都

合のつく会員が集い、母校に思いを馳せ談論風発、そして情報交換にと、先輩、後輩の絆を深めております。

さて一方、昨今の世界の動き、日本の動き、地方の動きを俯瞰するとき、多くの方々は何か、もう少し何とかならぬものかと、満たされぬ思いで日々を過ごされているのではないだろうか。

それにしても、一向に行方定まらぬわが国の政治、経済、社会の現状を、極めて残念に思っています。もちろん、このような状況は、日本のみならず世界の様々な国々においても、似たり寄つたりのことのように見受け

ます。

なぜなのでしょう。か…。

いくつかの原因が考えられますが、その要因の一つとして、上に立つ人間の統治能力と確固たる思考の構築の欠如が大きく影響を及ぼしているのではないかと思考するものであります。

今、国民が何を考え、何を求めているのかを正確に把握することは確かに至難のわざではありますが、国を束ねる人間は、慎重さに裏打ちされた深い洞察力と鋭い炯眼を持って、自らの政治哲学を決してブレることなく具現化し、国家や国民を一つの方向に導いて行く義務と責任があるものと考えます。私自身も、現在、小さな基礎自治体の長として、急速に進展しつつある少子高齢型の人口減少時代に的確に対応できるまちづくりを、市民との協働の下、全職員一丸となつて、より良き姿を模索しつつ、連日、汗を流しているところであります。

恒例の支部総会が、来る十一月六日(土)、松本市で開催される運びとなつております。本年は学校創立百十周年の年にあたつており、多数の会員の皆様ご参加の下、母校の更なる飛躍を強く願いたく存じます。是非お顔を見せて下さい。心よりお待ち申し上げております。

～第17回支部総会のご案内～

日時：11月6日(土)

14:30 開場

15:00～16:45 第一部：総会・講演

16:45～18:30 第二部：懇親会

会場：松本ホテル花月

松本市大手 4-8-9 電話 0263-32-0114

会費：¥8,000(学生の方は¥4,000)

第一部のみ参加される方で、'10年度支部年会費

1,000円を払われた方は無料です。

返信葉書で出欠をお知らせください。



記念講演 「『香』の向こうに — 熱帯雨林と日本人」

信州大学 全学教育機構 准教授 金沢 謙太郎氏 (85期)



マレーシアの採集民族が採取している「沈香(じんこう)」と、それを育む熱帯雨林の行方、日本人との関わり方などについて、お話しいたします。

略歴 ・'91年 東京外国語大学 外国語学部 ヒンディー語学科 卒業
・'97年 筑波大学大学院 環境科学専攻修士課程 修了
・'01年 東京大学大学院 国際社会科学専攻博士課程
・'01年～'08年 神戸女学院大学、総合地球環境学研究所、京都精華大学、国立民族学博物館にて教職、研究職
・'08年～ 信州大学全学教育機構 准教授(現職)
・所属学会：環境社会学会(運営委員(理事))、日本社会学会(運営委員(理事))、日本環境学会 等多数。

職場訪問 《松本市役所》の巻

今回は、「誰もが暮らしていたい・暮らしてみたいまち」の実現に向け、菅谷松本市長を行政の実務で支える、松本市職員のお二方に話をうかがいました。

まずは、**尾崎順さん(90期)**です。秘書課主任として、市長と副市長の日程調整や庁外業務への随行に携わられています。

尾崎さんは、上田第一中学校の出身です。野球部の二塁手、俊足を活かしてトップバッターとして上小大会を勝ち抜き、何年かぶりの東信大会出場に貢献しました。

高校時代では、学業で苦労したことが思い出そうです。進学に当たり、国立文系コースを選択したものの、大学入試センター試験の科目である数学が大の苦手でした。授業についていくのもひと苦労。過去の入試問題を生徒が黒板で解答する授業で、自分に回ってきた過去問題が全く理解できず、図書室の『赤本』の正解をノートに書き写して授業に臨みます。もちろん正解！なのですが、解法の説明を先生に求められ、しどろもどろ。「赤本にはそこまで書いてないんだよな。」と図星の指摘をいただいたこともあった

そうです。

中央大学法学部に進学した尾崎さんの思い出は、イベント企画サークルでの活動だそうです。長野県人会かと勘違いするほど、長野県出身者(特に屋代高校の卒業生)が多かったサークルでした。今でも、当時の仲間達と交友を温めているそうです。

大学進学の際の選択では、公務員という将来の職業が、尾崎さんのなかで、おぼろげながら固まり始めていたようです。尾崎家はお祖父さん、そしてお父さんも上田市に勤務された公務員一家。市民のために働くお父さんの姿をみながら、尾崎さんが公務員の道を志したのは、自然なことだったでしょう。

文化の薫り高い松本市は、尾崎さんの働いてみたい場所のひとつでした。新卒の採用試験に合格して以降、尾崎さんは様々な職場で経験を積んでいます。

耕地林務課、観光温泉課、上下水道局、協働推進担当、行政管理課を経て、現職の秘書課で勤務されているわけですが、菅谷市長の公約でもある、市民や市民団体との意見

交換や事業推進を担当した協働推進担当時代が、特に印象深かったそうです。市民との直接の触れ合いの中で、住民活動での市民の努力や意識の高さに刺激を受けたそうです。

宮島さんは、上田第四中学校の出身です。体力づくりのために、小学生のときに始めた水泳(長距離)が得意とのこと。県大会にも出場しました。

お父さんと二人のお姉さんが上田高校卒業生という同窓生一家で、末っ子のご本人も、その仲間入りを果たしました。中学校でも高校でも、先生や先輩はお姉さんを知る人ばかりで、皆から「妹」とか「三番目」といったあだ名で呼ばれていたそうです。



爽やかな笑顔の尾崎さんと山本さん

高校では、選手として活動するつもりはなく、マネージャーとして水泳班に入りましたが、人数が足りなく、結局選手になりました。高校でも、長距離で県大会に進んだそうです。さすがですね。そのおかげ(?)で、夏のテストの成績は、「ご本人曰く『全然ダメ』。水泳シーズンが終わってからは、市の図書館に通って、必死に勉強したそうです。

続いては、**山本(旧姓宮島)久美子さん(94期)**です。健康づくり課で、母子健康、健康増進、介護予防のために、最前線の現場で活躍されています。(筆者・以下、独身時代は旧姓で記載します。)

将来の職業として、教員を考えていた宮島さんでしたが、担任の橋詰先生から、「去年できたピカピカの大学があるぞ。受けてみたらどうだ?」と駒ヶ根の長野県看護大学を薦められました。冗談めかして薦められた先生ですが、娘さんが看護の

青春絵巻の第二幕

農業倶楽部「千歳屋」主宰

66期 吉村 哲郎



青春とは、光り輝く日々をいう。

上田高校で学んだ月日は、我が青春絵巻の第一巻である。三年間を通して、応援団を中心に、ギター・マンドリンクラブ、フォークダンスクラブに所属。そして、最終学年になつてから文芸班にも入部した。下駄履きで青春を謳歌し、自転車と列車を乗り継いで通学。その途上で、どこかの女子高生からファンレターをもらった。心の中で叫んだものだ。「これが青春だあ!」

学窓を巣立った後は、ひたすら立派な社会人を目指した。会社人間に徹して生きた三〇余年、そのうち後半の十三年間は、東京都への単身赴任だった。昨年三月、そんなサラリーマン生活に終

止符を打ち、都会の単身生活で知り合った大勢の友達に惜しまれつつ帰郷。「ああ、東京の灯よ、いつまでも!」

「お爺さんは山芝刈りに!」などと陰口を叩かれようとするので、花も嵐も踏み越えて、先ずは思い切りウィークデイゴルフを楽しみ、合間には愛車を駆って日本中を旅して……と夢を膨らませていた。義父が急逝した。遺言ともいえる最期の頼みは、「家庭・農地を、現状のまま守り抜いて欲しい」。

死の床に横たわる老人の願いを、無碍に断ることができようか。「興味半分、面白半分でも良ければ」と引き受けざるを得なかったが、それが農業倶楽部「千歳屋」発足のきっかけとなった。「千歳屋」は、妻の実家の屋号である。

松本市農政課主催の団塊世代向け農業講座受講と同時に進行で、私の農業研修生活がスタートした。齢六十を過ぎて、初体験の農業機械に振り回される。初めて耳にする農業用語には首を傾げることだらけ。



てまりからくり時計 画 武村洋治(58期)

そんな中で、初めての米作りは酒米栽培に挑戦した。利き酒師でもある我が娘の長年の夢にもほだされた。名付けて「信州安曇野発! 酒米栽培プロジェクト2009」。二〇〇七年に雑誌『danceryu』の日本酒委員を務めて以来、私は「いつかオリジナルの清酒を造ってみたい」という夢を抱いていた。

それが実現の運びとなり、昨秋に収穫した酒米「美山錦」六六〇キログラムは、松本市島内の笹井酒造で仕込まれて純米酒六百升となった。発売は十月一日(日本酒の日)、一般募集で命名、「一寿一番星」と名がついた。詳細は、「新党日本酒」のホームページを見て欲しい。



田植え準備の「筋付け」(筆者)

さて、上田高校中南信支部幹事会ならびに「酒好き友の会」は、先輩諸氏の連帯によって毎月の第一月曜日に着実に実施され、継続してきている。最も興味深いのは、会議と酒宴の席順だ。卒業期順が鉄則で、厳然たる單純明快さが、むしろ何とも心地良い。魅力に溢れた愛すべき同窓生各位と楽しく交流させていた。感謝する次第だ。

様々な

期待感をますます膨らませて、我が青春絵巻の第二巻が始まっている。



新党日本酒のホームページ
<http://shintounihonshu.web.fc2.com/>

会費納入へのお礼と継続のお願い

支部財政の逼迫状況改善のため、2007年度より会費制(年会費として1,000円)を導入し、今年度で4年目となりました。これまで納入いただいた皆様のご理解とご協力に、改めてお礼申し上げます。

支部財政は少しずつ健全化しておりますが、安定的運営に向けては依然としてその途上にあります。

今年度も振込票を同封させていただきましたので、引き続きのご協力をお願い致します。限られた予算での効率的な運営に、努めて参ります。(中南信支部事務局)

会員短信

昨年の返信ハガキなどから



窪田 聖美(51期) 諏訪市

日常生活の合間をみて、山
野行、スケッチ行を楽しんで
います。

林 庄平(52期) 下諏訪町

二十坪ほどの菜園で、新鮮
食材を得ています。スーパ
ーマーケットの棚の品物とは価
格競争はできませんが、播
種・間引き・成長の過程を楽
しむと考えると、土と親しむと
納得しています。

丸山(伊藤)勝彦(61期)

安曇野市

今でも、校歌を聞くと、ジ
ーンとします。野球やサッカ

鹿野 美智子(71期) 伊那市

会報をいただくと、上田の
地とのつながりを感じること
ができ、離れていても、
仲間がいることを実感しま
す。

松崎 眞(74期) 塩尻市

四十代から剣道を始めて、
仕事以外はほとんど剣道漬
けの日々です。現在、塩尻市
立丘中学校剣道部の外部指
導者の一人として、稽古指導
に携わっており、昨年は男子
団体が熊本へ、今年は女子団
体が島根出雲へ、それぞれ中
学全国大会に出場するまで
になりました。

ーは、今でも
応援中で、血
が騒ぎます。

前澤 隆男
(64期)

退職後、松
本市教文セン
ターの松本市
教育会の事務
局で三年目に
なります。

太田 祐子(81期) 岡谷市

元気でやっています。

百瀬 理佳(82期) 松本市

松本聾学校で勤務しており
ます。

加藤 学(85期) 飯田市

おかげ様で、先の総選挙で
当選しました。東京と伊那
谷を往復しての生活をして
います。

新任幹事のご紹介

松本市在住の吉村哲郎さん(66期)が幹事
となりました。

吉村さんは農業倶楽部「千歳屋」を主宰さ
れており、3ページにご本人からの寄稿記事
を掲載しています。

同窓ゴルフの報告

久保田 信二(61期)

猛暑の8月11日、懸案の同窓ゴルフ
会第1回を松本CCにて行いました。
参加者は、昔は凄腕だったと自称の
武村洋治氏(58期)、県アマにも参戦
歴をもつ、昔も今も凄腕の大口静雄氏
(59期)、何故か松本CCを自宅の庭
のごとく熟知の吉村哲郎氏(66期)、
自宅から一番近い(5分)だけの久保
田信二(61期)の4人で「舌戦」を展開
しました。プレー中の遠慮のないやり
取りをまとめると、スコアと寡黙度は逆
比例するという法則が結論です。戦い
終了後、この楽しさをもっと多くの同窓
に伝えるべく、今年の秋の再開催を誓
いました。尚、当日のスコアの結果は、
最年長者の命により、公表できないこ
ととなりました。(笑)

『まつもと水巡りMAP』を改定しました

武村洋治(58期)

平成20年 環境省 平成の名水100選認定に向けて作成した「ま
つもと水巡り MAP」を今年8月に改訂しました。この2年間で10ヶ処以
上も井戸が増えたのと、レイアウトも見やすくしようということで全面的
に変えました。

